

旭

印刷を支え加工を活かす

物流部門
まつ じゅい
松尾樹依

旭紙工で働く両親を持ち「幼少期から社員の方には可愛がってもらっていた」という松尾さん。2022年4月に仲間入りを果たし、日々前向きに業務に励んでいます。高校では旭紙工でアルバイトしていたという松尾さんが、現在感じている苦労ややりがいとは？



まずは、入社の際を教えてください。

両親が旭紙工で働いており、幼少期から社員の皆さんには温かく接してもらっていました。「ここで働いてみたい」と具体的に思い始めたのは、高校1年のとき。旭紙工でのアルバイトがきっかけです。初めて機械を使った製本を体験し、ものづくりの楽しさと目標を持つことの大切さに目覚めた瞬間を今でも覚えています。高校を卒業すると同時に旭紙工への入社を決意。現在に至ります。

現在の仕事内容は、どのようなものですか。

リフトを使った納品物の荷卸しや、お客様に商品を正確にお渡しする業務を行っています。リフトの免許は高校3年で取得しました。アルバイトで製品づくりの現場を経験していたため、商品の流れや作業の効率を意識しながら、日々の業務に取り組んでいます。現在は物流部門を担当していま

やりがいを感じる瞬間は、どのようなときですか。

荷物を綺麗に並べられたときは達成感があります。整然と並べた荷物を見ると「自分の努力が形になった」と実感します。

また、時間指定のある荷物の場合、積み込みのスピードが求められるます。スムーズに積み込みでき、ドライバーから「ありがとう」と感謝の言葉をもらえると、とても嬉しく思います。「次も急いでいるドライバーのために、さらにスピーディーに作業しよう」「明日からも頑張ろう」とやる気が湧いてくる、やりがいを感じる瞬間です。

最後に、今後の目標をお願いします。

作業スピードを向上させ、業務がよりスムーズに進むよう技術を磨いていくことです。荷物はさまざまな形状をしており、中には段ボールや印刷された紙類がそのまま運ばれてくることも。倒したり破ったりしないよう、慎重さを保ちながらも

ですが、以前は母と一緒に作業に入ることもありました。折作業を行っていたときに教わったのは、機械に紙を積み込む際に空気を入れて整えると、よりスムーズに動くということです。また、包装作業においては「作業スピードを機械の回転に合わせてると良い」とアドバイスをもらったことも印象に残っています。

では、これまで苦労した経験はありますか。

物流部門は、アルバイトで経験した機械を使った手作業とは異なり、荷物の積み下ろしが主な仕事。最初は自分がやっていることが正しいのか分からず、不安と戸惑いを感じていました。幸い上司である課長や部長は、私が小さい頃からお世話になっていた方々。そのため相談しや



仕事をする際のモットーを教えてください。

2024年問題への対応として、ドライバーの対応時間を短縮しようという部門全体で取り組んでいます。以前は1人で担当していた業務も複数人で協力して行うようになったことで、周りの状況をよく見ることができるようになりました。また、お客様が納品する荷物を綺麗に並べることも心がけています。

倉庫内にはお客様が見学に来ることがあるため、荷物が丁寧な扱われているかどうかが、旭紙工の印象に影響します。そのため、いつでも丁寧に荷物を扱うことを意識しています。

企業情報

- ◆ 創立年：1983年1月
- ※ 創業：1963年
- ◆ 年商：17.6億円
- ◆ 従業員数：200人

ビジョンとパッション

第6弾

終始冷静で穏やかな語り口調ながら「プロフェッショナルを一人でも多く」「会社と仕事のことを一番に考える」「メンバーを守るために厳しさも必要」と熱い言葉が次々と飛び出した松尾課長。その熱意あふれる頼もしい姿、旭紙工にとって心強い限りです。

松尾課長って
どんな人?

工場本部 本社工場 マルチ部門 課長
まつお たけし
松尾 剛志さん



▼ ここがすごい! ▼

旭紙工の強み

瞬発力とチームワーク

どこかの部門で困りごとが発生したり、助けが必要になったりしたとき、部門や部署の垣根を越えて速やかに皆が駆けつけて、一緒に対応してくれるのは、他社にはない強みだと思います。私が入社した当時からその強みは不変。しかも、社員数が倍以上に増えて会社が大きくなった分、キャパシティも広がって強みが増していると思います。1~2週間に1回、管理職が行う新人を中心とした若手教育の場でも思いやりの心を伝えて、代表が言う「情のある会社」を全員で目指しています。

大ロット品やカレンダー製本はお任せあれ!

人員の多さと24時間体制で他社では困難な大ロット品も製造可能。回転率良く、生産性高く製造します。また、カレンダー製本も強くアピールしたいところ。他社ではできない無線断裁や折り中綴じが可能です。

今後長期的に成し遂げたいこと

プロフェッショナルな人材を育て、増やす

理想は、誰もがどこでも、どの作業も、どのオペレーターにもなれること。そうしたプロフェッショナルな人材を一人でも多く育てて、どんどん増やしていきたいと思います。当社ではタイを中心に外国人研修生・実習生が次々と仲間に加わっており、そのメンバーにどれだけ助けてもらえるかが今後の会社運営で重要になります。そこで、外国人オペレーターの教育が急務ですが、悩ましいのが「言葉の壁」。日本語スキルの差が大きいため、意思疎通に難儀する場面も少なくありません。その場合は、ジェスチャーと顔の表情変化を駆使し、日本語が得意な外国人メンバーの助けも借りながら、コミュニケーションをはかるよう努めています。今後もしっかりと交流しながら海外メンバーの教育に注力します。

自身の信念

会社と仕事に対する強い思い

昭和の、古い考え方ですが、私は「仕事中心の人間」で、「会社と仕事を一番に考えて生活すること」がポリシーです。以前からそのポリシーに変わりありません!

仕事をする上で大切にしている考え方

ときに
厳しく接することが
メンバーを守ることに
つながる

人を「守る」のは、ただひたすら優しく接することではないと思います。作業一つに対しても、ときにミスしないよう、不良が出ないように、厳しく指摘。そうして改善できれば、その人のスキルや対外的評価が向上し、その人を守ることにつながるはず。そう信じて、メンバーに対して愛情をもった厳しさで接し、守っていきます。